

## II 学ぶことの1つに理科を

一歳はとっても元気に学び続ける皆さんに一

奈良サイエンススポットの連載中、途中からは私と同年代のおじいさん、おばあさんにも登場してもらいました。こうした年齢の方々、私よりずっと先輩の方々の旺盛な向学心には驚かされます。老人大学、高齢者学級、地域の老人クラブが行う活動に参加し、とひまを見つけては跳び回っておられます。そんな方はいたってお元気、病気のほうが逃げていってしまいそうです。

勉強の種類も豊富です。小学校6年生の8つの教科と比較して考えてみましょう。

まずは国語です。ずいぶん盛んです。読書サークル、万葉教室、短歌や俳句のサークルでの活動、同人に所属して小説を書き始めたという方もおられるなど、その取り組みは多様です。2つ目は社会です。歴史教室、寺社見学のツアー、石仏を訪ねる、古い街道を歩く、工場見学などいろいろです。算数、これはあまりないかなと思ったら、大流行の「数独」に凝っている人、孫の珠算の勉強にお付き合い、昔取ったなんとやらで、結構これにはまっているんですという人がいます。「古希を記念してコンピュータの勉強を始めました」これも算数の勉強と考えていいでしょう。

音楽、「大人のピアノ」なんていう講座があります。昔、高嶺の花だったピアノ、「子どもたちには買ってやったけど自分はできなかった、これから挑戦だ」そんな人たちが満員だそうです。コーラス、第九を歌う会、大正琴に二胡、音楽の勉強も多様です。図画工作はどうでしょう。近くの公民館で開かれる陶芸教室、絵手紙などは募集開始

とともに満員です。ほかにも日本画、俳画、水墨画、トールペイントなどの愛好者がいっぱいです。家庭もそうです。手芸、編み物、最近では洋裁教室なども盛んだと聞きました。「男子、厨房に入る」といった料理教室もあります。体育では水泳、テニス、バドミントンなどにグラウンドゴルフ、ペタンクといったニュースポーツが加わって、元気なお年寄りが増えました。

「あれ、理科が抜けてるよ」そうです。公民館で行われている講座に見当たりません。ないとは言えないのですが、お年寄りが理科を学ぶ、科学に親しむ、そんな場があってもいいのと思います。

科学では自然の中に潜んでいる因果関係や規則性を探し出し、法則化します。「太陽がああ山のところに沈むようになった頃に紅葉が始まるんだ」「あの山の頂きの雪が消えた頃に種を播くとちょうどいいんだ」こんな発見は何年かの体験から生み出されるものです。こうした発見はお年寄りによるものに違いないと思います。そう考えると、科学こそ年長者のものという気がしてきます。

学び続けることの1つに、ぜひとも理科を加えていただきたいと考え、私は、高齢者学級などで、「月までの距離はどうして測るんだ」という疑問に答えるための「月はとっても遠いから…」と題した話をし、「あなたは塩と砂糖を見分けることができますか」という演題で物質の本質を考えていただきました。それは「大人の理科」の時間なのです。

こうしたことを通して科学的な見方・考え方を確立していただきたいと思います。



「やっぱり理科は面白い」の表紙から